

d
a
y

t
o

d
a
y

作・佐藤かつら

盛岡市立高校演劇部

【キャスト】

イトウ（演劇部・男）

ウエキ（ギャル系・女）

ダイ（元野球部・男）

アカリ（文化祭委員・女）

田村さん（おとなしめ・女）

女1（年配の婦人）

女2（小さい女の子）

女3（ユーレイ）

以下の脚本では、

一応は区切りとして場面数は変わるが、

（第一场以外は）基本的に設定も時間も変わらない。

高校の文化祭の前日、放課後の、ある特別教室である。

場と場の転換は、陽転でも暗転でも、音楽のみでもいいし、そのまま続けてもいいように構わない。

女1・2は省略可。

第一场をなくしても可。

イトウを女にしても可。

第一場

女2がぬいぐるみで遊んでいる。

ぬいぐるみに話しかけ、耳を寄せて、ぬいぐるみと話をしている。

突然女2はぬいぐるみを投げ捨てる。

そこに登場した女1。

ぬいぐるみを拾い上げる。

女1
あらあらあら。

かわいそうにねえ、くまさん。

くまさんじゃないもん。

女2
あら。くまさんじゃないの。

ブタさん？

女2
ブタさんじゃないもん。

女1
じゃあ、わんちゃん？

女2
ちがうもん。ゆうちゃんだもん。

女1
ああ、ごめんなさい。

ねえ、ゆうちゃん。(とぬいぐるみに話しかける)

女2
ちがうもん。

あたしが、ゆうちゃんだもん。

女1
ああ、ごめんなさいねえ、ゆうちゃん。

：

女1
ゆうちゃん。ぬいぐるみさん、かわいそうだよ。どうしたの？

女2
だって。

女1
だって？

女2
だって、ゆうちゃんが、なぜなぞ出しても、ぜんぜん答えられないんだもん。

女1
なぜなぞかあ。

じゃあ、私が答えてあげる。

女2
ほんと。

女1
なぜなぞ、出して。

女2
答えられる？

女1
(うなずく)

女2
じゃあ。

「ゴジラがいます」

女1
古いわね。ゴジラね。

女2
「ゴジラは、いつ寝ますか」

(間)

女1 それだけ？

女2 いつ？

女1 もしかして…5時？

女2 ハズレです。夜です。

女1 …あのー…

女2 つぎのもんだいです。

女1 あら。

女2 「いちにちは、どれくらい長いですか」

女1 それは…なぞなぞ？

女2 ゆうちゃんは、さくらようちえんの、なぞなぞはかせです！

女1 うーん、一日の長さねえ…

女1 一日は…二十四時間？

女2 ゆうちゃんは、十よりおおきいのは数えられません！

女1 わかんないなあ…

女2 そうゆうときは、「ヒント」って言います。

女1 じゃあ、ヒントください。ヒント、ヒント。

女2 ヒントです。

ゆうちゃんのおたんじょうびの前の日、お父さんが「あと一日でお誕生日だよ」って言い
ました。

でも、ゆうちゃん、ずっと待ってたのに、おたんじょうびは来ません。

ずーっと待ってたのに、おたんじょうびにならないんだよ。

女1 (独り言のように)…私にも、そんな日があつた。

悲しくて、悲しくて、どうしても一日が終わらない、そんな日が…

女2 悲しくないの！ おたんじょうびなんだから。

ワクワクしてドキドキして、ずーっとその日にならないの。

女1 ああ。何かを待ってる日って、終わらないね。

運動会の前の日や、遠足の前の日…

女2 じゃあ、答えは、一日は「終わらない」。永遠、だね。

女1 えーんえーん？ ゆうちゃんが出したのはなぞなぞだよ。

女1 (自分に向かって話すように)

死んだら、たとえば人が死んだら、その人にとって世界は終わりなんだろうか？

それとも、その世界の終わりの前の日の中に、残されてしまふんだろうか？

女2 答えは、ゆうちゃんが6才になる長さです。

女1 もし、どこか一日の中にいるんだとしたら、苦しかったり悲しかったりする日じゃなくつ
て、楽しくってワクワクしてドキドキする一日の中にいてくれればいい…。その日が永遠

女2

であるように。

ゆうちゃんには、わかんないや。

…でも、だれか、死んじゃうの？

照明暗くなる。

第二場

舞台は学校の一室。文化祭のお化け屋敷の準備中。

作りかけの道具類が雑然と置いてある。その中にイトウが一人。

明日に文化祭を控えて、学校全体がざわめいている中、

学校放送も聞こえてくる。

放送の声

「文化祭参加団体は、準備を始めて下さい。

朝の連絡通り、下校の時間はきちんと守ってください…」

イトウがいるところに、ウエキとダイが、それぞれ椅子や墓などを運びながら入ってくる。⁵

ウエキ　なんでーここにイトウ君がいるのー？

ダイ　同じクラスだもん。いたっていいじゃん。

ウエキ　だって今まで来たことないじゃん。

ダイ　誰だって心を入れ替えることはあるだろ？

ウエキ　：

イトウ　いや、言っておくけど、

俺、お化け屋敷、手伝いに来たんじゃないから。

ウエキ　ほーら。

ダイ　お化け屋敷じゃなきゃ何しに来たのさ。

あ、ごめん、イトウ君、そこ見してくれる？

なーだれかー、おれのパンツ知らない？

ウエキ　は？あんたの何だって？

ダイ　おれのパンツだよ。パ・ン・ツ。男らしい、茶色いパンツ。

ウエキ　（小さく）なんで茶色なんだ？

イトウ　さがすの、手伝うよ。

ウエキ　手伝うなよ。

ダイ　やーん、ウエキさん、こ、わーい。

ウエキ　うちのクラスのおばけ、手伝えよ。
イトウ　おれ…演劇部だし、舞台あるから。

クラスの方手伝えないのは悪いけど…

ウエキ　あーあ、みんな、部活だからーとか、塾だからーとか、進学組だからーとか。
あたしだってー、そーいえばー、カレシー、待ってるからー

（帰りかける）

ダイ　（マジに）待てよ。

ウエキ　なによ。

ダイ　あったよ。

パンが二つで、パン・ツー。

ウエキ　パンかよ。

イトウ　よかったな、見つかった。

ウエキ　喜ぶなよ。

あーあ、だいたいアカリさんも来てないじゃない。責任者、でてこーい。

アカリ、下手から登場。

アカリ　お待たせー。

あれー、今日もこれだけー？　準備、最終日なのに。

ダイ　（指折りながら）

佐藤さんはカレシが待ってて、阿部君はカノジョが待ってて…

ウエキ　みんな文化祭どころじゃないってさー。

来てるのに手伝えないーなんて、ありえないやつもいるし。

アカリ　あーイトウ君、来てた？

いいよいいよ、ここらへんでやってね。

さて。私たちは、残ってるお墓とか、作らなくちゃね。

ウエキ　何よ、こいつだけ仕事やんないわけ？

イトウ　いいよ、おれ、別の場所さがすよ。

（帰りかける）

アカリ　いいよ！　ここ使いなよ。

（ウエキとダイに）演劇部はね、実は、すごく悲惨な目にあってね。

田村さん、同じく下手から静かに登場。

田村　こんにちは。

アカリ　あっ、よろしくねー。

（再びウエキとダイに）というわけなんだ。

ダイ　よし、わかった。

ウエキ わかってんじゃねーよ、全然わかんないじゃん。
イトウ 練習に使っていた部屋が、漏水で水浸しになっちゃって、使えなくなったんだ。

そしたらアカリさんが、ここ使えば、って言ってくれて…

アカリ いいでしょ。お化け屋敷の準備だけだから、ここ、場所余ってるし。

ウエキ 余ってるとか、そういうことじゃなくて。

アカリ いいじゃない。みんなそれぞれ文化祭の準備やってるわけだし。

ウエキ クラスのには出てこないやつが、こんな時だけ？

ダイ まあまあ、クラスメートのよしみてやつで、よ・し・み。

(間)

ウエキ ヨシミって誰？

アカリ え？

ウエキ いま、ヨシミって言ったじゃん。だれ？

ダイ いや、お互いさまってゆうか、おあいこってゆうか

ウエキ アイコなんて子、いたっけ？

ダイ ってゆうか

ウエキ ユウカって誰？

アカリ さー、仕事仕事。

ウエキ ダイ、ヨシミって誰だよ。

ダイ アカリさん、暗幕って借りられるんだよね。

アカリ 生徒会があとで放送かけるって。

田村 あのー…

アカリ お墓があと四つ、オバケが三つ、あとは看板は、もうちょっとで完成、と…イトウ君も、本番前でしょ。ね。

考え込む植木を除いて、それぞれ仕事にかかる。

アカリはポスター描き、ダイは墓づくり、

田村は縫い物を、伊藤はストレッチをしている。

田村 ね、イトウ君、明日の舞台、なんていうお芝居なんですか？

イトウ ザ・デイ。

田村 ざ・でい？

イトウ その日、とか、そのいちにち、って意味で「ザ・デイ」

ダイ 短いな。

イトウ 副題が、「世界の終わりが今日だとしたら一緒にいたいのは君だ」

ダイ 長いな。

田村 どんな内容なんですか？

イトウ 明日が世界の終わりの日。ほら核戦争とかゴジラが来たとか、明日で世界が終わりだってみんなが知っている日。

その一日をそれぞれがどう過ごすかっていう群像劇。

アカリ インディペンデンス・デイみたいなの？

ダイ 群像劇って何？

ウエキ ヨシミなんてクラスにいたっけ？

(間)

田村 あのー…

イトウ 群像劇って言うのは、たくさんの人が主人公で、それぞれのエピソードが同時に語られるんだよ。こっちでは子供をさがす母親、こっちでは彼女をさがす男…

ウエキ、あちこちをバタバタしながら、何かを探し始める。

ウエキ ヨシミヨシミ…

ダイ あっちではヨシミを探すウエキ…あわれよのう

田村 あのー…

ダイ で、それを誰がやるわけ？

イトウ おれ。

ダイ いや、だから、いっぱい人がでてくるわけでしょ。

母親とか…

イトウ (自分を指さす)

ダイ 男とか

イトウ (同じく)

ダイ 彼女とか…？

イトウ おれ。

アカリ 一人芝居なんだよね。

イトウ 全部おれがやるの。

ダイ 他にいないのかよー？

イトウ いいの。おれ一人で。

田村 あのー…

ダイ 一人芝居の群像劇…

アカリ いいじゃない。さ、ダイ！ お墓。

ダイ 世界の終わりかー…おれなら何するかな。

まず、食うな。もりもり食うな。食い放題の店に行って。

野球部の練習帰りによく行った焼き肉屋。

あ、世界が終わりなら食い逃げしてもいいんだ。もっと高い店に行つて。
んー、ステーキかなしゃぶしゃぶかな…

アカリ
ダイー

ウエキ
（紙を広げて）いた！

アカリ
ウエキー

ウエキ
クラス名簿見たらいるじゃん、ヨシミ。

ほーら、田村、ヨシミ。

田村、田村…ってだれ？

放送の声 「3の1の田村さん、田村ヨシミさん。

ゴンドウ先生が呼びびです。職員室に来てください」

田村、下手から静かに出ていく。

ウエキ
田村？

ダイ
ヨシミ？

学校全体のザワザワした音があたりをつつむ。

第三場

イトウが一人芝居を演じている。

他の人々はそれぞれおぼけ屋敷の作業中。

イトウ
あのとき別れた後、ずっと君のことを怒っていた。

でもそれは憎しみではなく、愛だったんだ。

この世界は明日終わる。こんな日に気付くなんて…

トンカチの音、最初は小さく、だんだんセリフとかぶって大きくなる。

イトウも負けずに大きな声を張り上げて

イトウ
いや、世界が終わるからこそ気づいたんだ。

いっしょにいたいのは、君だ。

おーい、君ー。どこにいるんだあー。

あっ。あれはっ。

ちょうどそこに布をかぶったユーレイ3人登場。
うち2人は白い布、ダイとウエキである。

残り1人(女3)は黒い布をかぶっている。

伊藤の芝居を邪魔するかのように、うろろろする。

エグザイル風のトレインダンスのモーションなどしながら。

イトウ (女声で) 私が悪かったわ。こんな日に気付くなんて。

ああ、会いたいわ。ヨシノブさん。

変ね。空耳まで聞こえるわ。ヨシノブさんの声が…

声 うろろめしや

イトウ 何だよ。

ダイ (シーツを少しはずして) わりい。

ちよっと練習をさー、

イトウ (気を取り直し)

とうとう会えたね。

ええ、会えたわ。

がバツ。

ああ、そんな。

ねえ、聞こえる？ 私たちの思い出の歌よ。

田村のいじっているラジカセから

歌「おらは死んじまっただ」

ここで黒いユーレイ(女3)のみ退場。

イトウ …

田村 ごめんなさい。

ウエキ (シーツをはずす) 文句あるなら、イトウの方で場所変えればいいんだよ。

イトウ は一人なんだし。

イトウ …

ダイ マター、ウエキちゃんったら、きついんだから。

ウエキ 集まり悪いのはこっちも同じだけどー。

ってゆうか、出し物ちょーてきとーだし。

うちのクラス、お化け屋敷、これで何回目ー。

ダイ そういえば、こんなことが前にもあった気が…

これは(女の子っぽく)

もしかして…デジャブ？

ウエキ 三回目なの。三回目。

一年のときも二年も、1組はお化け屋敷だったの。

アカリ　でも！　みんなで決めたんじゃない。
みんな、「やっぱり文化祭といえはお化け屋敷だよ」って。ウエキだって、そう言っ
てじゃない。

ウエキ　まあ、そう言われれば

ダイ　まー、チャレンジ精神がないって言えばないな。

アカリ　担任のゴンドウ先生だって、「1組と言えば、お化け屋敷だよ」って。

ウエキ　ほーら。

アカリ　何？

ウエキ　そうやってすぐ、先生がこう言ったああ言ったって。

ダイ　ウエキ。

ウエキ　なんかさー、小学生じゃないんだからさー、って感じ。

うつむくアカリの気持ちを表すような、

センチメンタルかつドラマチックな音楽。（たとえば「冬ソナ」）

音楽、思いつきりひっぱり、みんな音楽に妙に気持ちが乗ったところで

放送の声

「模擬店のクラスはテントを設置します。

代表者はすぐに来てくださーい…」

この芝居のBGMと思いきや、学校放送の音楽なのだった

ダイ　放送かよ。

ウエキ　何考えてんだ、うちの放送部は。

イトウ　ウエキさんってさ、普通と違うよな。

ウエキ　何だっていうのよ。

イトウ　いや一般的な女子ならさ、陰口にすると思うんだ。

「ねーえ、聞いたー？」こそこそ

ダイ　「やっぱり？　だよねー」こそこそ

ウエキ　（感心して）、えらいな、おまい。

イトウ　陰口じゃなくて、だもんな。

ウエキ　友達いないの、あたし。あーあほくさ。（舞台奥へ）

ダイ　…でもさ、

たしかに、友だちって、

欲しい時いなくて、いる時面倒だったりするよな。

イトウ　（もうみんな、気のないふう）そうか？

ダイ　貯金、できればいいと思わね？

イトウ、自分の仕事にとりかかる。

ダイ、アカリやイトウに無理に反しかける。

ダイ 貯金よ、貯金。

必要ないときにためとくの。友だち、今必要ない、ってときで、あー今必要だなーって時にくずすのさ。

あーおれの友だちー、貯金しといてよかったーって。

なー、イトウくん。

貯金、ほしくない？

イトウ 部員。

ダイ ぶいん？

イトウ 演劇部の人数貯金なら、ほしい。

ダイ ー、切実ですね。

ウエキは？ やっぱり友だち貯金？

ウエキ ー説教かな。ゴンドウ先生の説教。

ほおお。これは、いらないうちに貯めておこう、というわけですね。

（ゴンドウ先生のまねで）「ウエキ、おまえはいつつもいつつも。なんだその格好は。おれはまったく。」

ウエキ ストップ。貯金しとこ。

ダイ 貯めるのはいいが、くずすときがこわい。

「ウエキー！（なんだかわからない早口言葉）裏庭には二羽焼き肉がー」

イトウ 二羽ニワトリが。

ダイ 田村さん、だよな？ 田村さんは？

田村 えっ。私、早口なんて：

ウエキ いや早口じゃないから。

ダイ あ、おれ今一つ思いついた。

眠るの、眠るの貯金できたらよくねえ？ あ、寝だめってゆうか。

な、アカリさん？

アカリ 私、成績貯金。

ダイ 成績って、学校の成績？

うわっ、成績のいいアカリさんが思いつきりいやみ、ってゆうか。

ってゆうか、成績って、貯金できるよね。

まんま、貯められるじゃん、いい成績がさ。

アカリ 私、成績、よくないよ。

ダイ 成績いいやつって、だいたいそう言うんだよね。

アカリ だから

ダイ あーおれ、今陰口になっちゃった。こそこそこそ。

アカリ （ポスターを貼り終えて）よし完成。

田村 私…

ダイ あ、ごめんね、田村さん。

なに貯金がいい？

田村 さっき…

ダイ うん

田村 さっきのユーレイって、3人いましたよね。

ウエキ いたよ？

田村 あれ、誰ですか？

ウエキ えー？ あたしと、ダイと、

ダイ オレと、ウエキと、

田村 もう一人は、誰ですか？

窓から顔を出すユーレイ。ただし誰も気付かない。

SE あやしげなメロディ

みんな ひえー

学校のざわざわ音高くなる

第四場

白衣を着たイトウにサス

イトウ 早く世界の終わりを止めなくては大変なことになってしまう。

あ、紹介が申し遅れました。

ワタクシはお茶の水博士こと、イトウ博士です。アルバートと呼んで下さい。

ワタクシは、誰より早く世界の終わりを予知した科学者。

でも、絶望してはいけない。何とかしなければ。愛する者たちを救うために。

ダイ うーん、なんて言っていないか…

イトウ じゃあ黙っててよ。

ダイ、デッキをいじって

カチャカチャいわせている。

イトウ ワタクシは孤独な科学者。たった一人でも世界の破滅を止めなくては。

まず、町に出て人々に呼びかけよう。

ダイのいじるデッキから、人々の叫び声が

イトウ みんな、ワタクシを怖がる。ワタクシを避ける。ワタクシの何が？

「たった一つの白衣を捨てて、生まれ変わったこの体。世界の終わりをたたいて砕く。イトウがやらねば誰がやる」(シュワッチ)

紙の破れる音。

イトウが跳んだ瞬間に、お化け屋敷のポスターを破いてしまったのだ。

みんな あー。

明かりがつくと、アカリが泣いている。

イトウ アカリさん、ごめん、ごめんなさい。

アカリ (首を振る) ち、ちがう。

ウエキ 責めていいんだってば。

アカリ (首を振る) ううん。

ウエキ 違うの？ 何？ イトウの芝居？

アカリ、うなずく

ダイ わかった！ イトウの芝居があんまりくさいんだ。

アカリ ち、ちがっ。

(泣きながら) と、とても、か、感動して。

みんな えー！！

ダイ 頭いい奴って、わかんねえ。

ウエキ わからない。

アカリ イトウ君、脚本、書いたの？

イトウ、うなずく。

アカリ なんか、この、博士って、私に似てるなあ、って。

みんなに良かれと思ってやってるのに、煙たがられるところとか。

ダイ ウエキさん、ウエキ、なんか言えよ。

ウエキ あー言い過ぎたよアカリさん、悪かった。

ごめんってば、ごーめーん。

アカリ あ、ちがうよ。誰かのせい、ってのじゃなくて。

私、自分が優等生ぶってるの、よく知ってるもん、

ウエキ 優等生ぶってんじゃないくて、本物の優等生だから、いいんだよ。

アカリ …

ダイ ほら例えば、十年後か二十年後かわかんないけど、昔のクラスメートに会ったとするだろ。で、誰が今どうしてるー、とかの話になるよな。

そんなときに、アカリさんは、絶対、一番か二番に名前が出て来るよ。

「アカリさんどうしてるー?」「そうそうアカリさん」「今ねー」「えーすーごーい」なー!
ウエキ ダイだってそうだよ。「ダイっていたよねー」

「あーいたいたあのバカー」「どうしてるかなー」「知らない」
で、それと逆にー、どうしても名前が出てこないのって、いるよね。

ダイ あー、いるいる。ー組と言え、田中だろー、田辺だろー…あと一人、いるはずなんだけど
なあ、思い出せないー、なんてなー。

みんなは見えていないが、ユーレイ窓の外を通る。

田村 あー、

(間)

ダイ あー、違うよ田村さん。田村さんじゃないよ。

ばっかだなあ、ウエキ。ウエキだよ。

ウエキ そーそー。あたしなんかー、

しょっちゅう名前忘れられてー。

ウエキの下の名前なんだっけー、なんてー。

ダイ そー、バチじゃないっけーなんてー

ウエキとあわせてウエキバチ、なんてー

(間)

ウエキ・ダイ あーはっは。おかしいー。

ユーレイ、窓を横切る。

田村は気付いたようだ。

田村 (ユーレイを指さして) あー…

でもみんなは気付かない。田村はいつでも忘れられてしまうから。

上手、アカリにサス。

アカリ 夏休みの始まる日、友達何人かで、朝もやの中、自転車で出かけました。あてもなくただ走りました。あてもないけど、遠くを目指してただ走りました。その頃、子供だけでよその町に出かけちゃダメっていうきまりがあつて、それを破るだけで大冒険でした。いったいどこまで行けるのか、どのくらい時間がかかるかもわかりませんでした。知らない道を走って、だんだん日も暮れてきて、心細くなりました。私はとても不安でした。それでも、友達はずっと先へと走り続けます。強い日差しから、あたりがあたたかいオレンジに染まりはじめました。そのとき見た夕日は、今まで生きてきた中で、一番きれいな夕日でした…。

第五場

ダイ以外の全員いる。学校全体のざわめき
教室の外を人が行き交う。

ダイ、下手からあわてて登場。

ダイ て、て、てえへんだあ。

ウエキ ねえ、ダイ。あんた、これさあ…

ダイ ゴ、ゴ、ゴ、

イトウ 何だよ。

ダイ ゴ、

ウエキ ヒロミ？

ダイ ゴーです！

じゃなくって。

イトウ あ、あれだろ。

ダイ ゴ、ゴ、ゴジラがー！

アカリ 二年生でしょ。校庭でゴジラを作ってるのよね。

イトウ へえ。

アカリ すっごく大きくって、今年の文化祭の目玉。

ウエキ 新聞の取材も来るんだってー。

ダイ じゃなくって。

ゴンドウがー！

田村 ゴンドウ先生が？

ウエキ 死んだ？

ダイ 死ぬか。

じゃなくって。

泣いてるんだよ。ゴンドウが、泣いてる。

イトウ じょーだん。

ウエキ ありえない。

ダイ いやまじで。

今、会議室の前通ったら、なんか先生たち会議してんのさ。みんなこんな怖い顔してて。そしたらゴンドウが。

イトウ あのゴンドウが。

アカリ 文化祭関係かな。

ダイ 時期的にそうでしょ。

田村 泣いてるって、どんな感じなんですか？

ダイ いや、よくはわかんないんだけどさ、廊下からは声聞こえないし。

アカリ ダイ、もう一度、行け。

ダイ 合点でい。

ダイ、下手に退場。

アカリ お化け屋敷…中止とか。

ウエキ なに急に。

アカリ だってね。うちのクラスがお化け屋敷やること、渋い顔されてたんだよ、ほかの先生たちに。

イトウ 去年もおとしも、だもんな。

アカリ 1組が同じ企画を独占するのはどうか、って。

あと、後輩が言ってた。後輩のクラスも本当はお化け屋敷、やりたかったのに、って。3年生を優先させたってー。

ウエキ やりゃあいいじゃん。そのクラスも。

アカリ そもそも1組、職員室で受けが悪いし。

田村 でも今さら中止になったりしませんよね。

アカリ 覚えてない？

ウエキ 去年、お化け屋敷の暗闇で、女の子の体をさわった生徒がいる、って叱られたじゃない。うわっやらしい。誰よそれ。

アカリ、ウエキを指さす。

ウエキ えっ、イトウ？ うわっ、

てっ、て、あたし？

アカリ オバケ役で、ウエキ、やりすぎてたから。

客を襲って、さわっていたじゃない。

ウエキ いや、そんなやらしいことをした覚えは…

アカリ 「きゃーこわーい、イトウくん」

イトウ 「ぼくがそばにいるよ、アカリン」

ウエキ むかつくー。

「うーらーめーしーやー」(襲う)

アカリ ほおら、ね。

ウエキ しまったあ。

ダイ下手から登場。

アカリ どうだって。

ダイ 先生たち、もめてんだよ。

ウエキ やっぱり…

田村 言い争いしてるんですか。

ウエキ 責任感じるよ…

ダイ うちの担任と、生徒指導の、ほら、おかっぱ頭っばい…

イトウ カッパだな。

ダイ それ。おれ、廊下から見てたらさ。

カッパが、こっち側で、こんなふうに指を立てて…

カッパの動作

この後、ダイ、忙しく右に左に位置を変えながら二人のマイムを。

ダイ そうしたらゴンドウが、かーっとなって立ち上がるんだ。

ゴンドウの動作

ダイ 熱く語ってるんだよ、ゴンドウが。

…ところがカッパは、すんごく冷たい感じで、

カッパの動作

ふんぞり返って、人差し指を立てる

ダイ で、ゴンドウ、男泣き。(ダイも泣きそう)

ウエキ なんか、わかる。

何言ってるかわかるよ、ダイ。

アカリ あたしもー

ダイ だろ。

イトウ まず、カップが、こーんなふうに、言うだろ。

アカリ 「1組のお化け屋敷は、今年は中止した方が、いいんじゃないですか」

ウエキ で、ゴンドウが机をばーん、と…

アカリ 「文化祭は毎年あるけど、あの子たちにとっては、今年が最後なんです。」

アカリ かつこいい。

ダイ 「うちのクラスは本当にいいクラスなんです。」

イトウ そしたら、カップが指を、こうして、

ダイ 「いち組が…ねえ、ふっ」

そうしたらゴンドウが…(泣く)

みんな固まって、抱き合って、泣く。

ウエキ いいところあるし、ゴンドウ！

イトウ 見直したよ！

アカリ やっぱり、私たちの担任は、ゴンドウ先生しかないよね。

ダイ 感動した！

おれは感動したよ！

イトウ ひどいのは、カップだな。

ウエキ カップ、さいてー！

ダイ へのカップ！

みんな (声をそろえて) へのカップ！ へのカップ！ へのカップ！

田村 私たち、どうすればゴンドウ先生を応援できるでしょうか。

アカリ かつぱにみんなで抗議しに行こう。

イトウ おれもとことん応援する。

ウエキ 応援っていうより、絶対、ちょー最高のお化け屋敷にしてやる。

ダイ いいこと言うじゃん。

田村 私、あの…これ、

田村、ひそかにお化け屋敷のポスターを作っていたのだ。
おそるおそる差し出す。

ダイ なに？

田村 何か役に立てるかなと思って…あと少しで完成なんですけど…

みんな 田村さん！

田村 やっぱりダメですね。

ダイ これいいよ。これ、使おう。

ウエキ さすが田村さん。

アカリ ありがとう。

ダイ よし、おれもやるよ。オバケ役ならまかしとけ。

みんな手と手を合わせる。うつくしい光景。

イトウ あ、アカリさん：

アカリ 気にしないで。

ウエキ ありがとう。

ウエキ 照れるし。

アカリ 田村さんも。

田村 そんな。

ウエキ イトウ、あんたも、意外と、いいやつだな。

イトウ お前もな。

ダイ ；なあ、なんか、俺たち、いま、青春してねえ？

アカリ えー

ウエキ 照れるし。

田村 ダイくん。さっきの、貯金の話。

ダイ なに？ 貯金？

田村 わたし、今、みんなとのこの瞬間を、貯めておきたい。思い出の貯金に。

思い出貯金、いっぱいになるね。

ダイ (じーん) ヨシミちゃん。

おれも：ヨシミちゃんとのこの一瞬を貯めておきたい。

ヨシミちゃん貯金に！

例の放送部音楽。

もう盛り上がりまくり。次の放送の声を誰も聞いていない

放送の声 「今から暗幕を貸し出します。必要なクラスは生徒会室まで：」

ウエキ (放送とかぶって) このふたり、あーやーしいー。

アカリ いい？ わたしとウエキは、会議室に行く。

で、カップに抗議する。

他の人はここで待っていて。

みんなうなずく。

アカリとウエキ、下手に勇んで退場。

教室の外でも人々のざわざわする音。

第六場

ダイ しかし、むかつくよな、へのカップパめ。

イトウ なーんか、これ（人差し指を立てて）、いつもよくやってるんだよな。

田村 あの、それって？

ダイ おれ、よくカップパに怒られるぜ。

「トイレ掃除だ！　ひとりでやりなさいよ。ひとりで！」（人差し指）

田村 ひとり？

イトウ ひとり？

ダイ 一人って言ったら：一人暮らし、一人相撲、一人芝居：

イトウ 一人、芝居？

ダイと田村、イトウを指さす。

ダイ カップパが、こう、指を：

イトウ 「一人芝居、なんて、ねえ。」

ダイ ゴンドウが、バーン、と：

イトウ 「一人でも、がんばっているんです！　やらせてあげてください」

ダイ まさか。

イトウ 思い出した。

田村 何を？

イトウ ゴンドウ、演劇部の顧問だった：

田村・ダイ ええっ！

田村 ゴンドウ先生、あの顔で。

ダイ ヨシミちゃん。

イトウ あー気が付かなかった。

そういえば、生徒会から言われてたんだ。このままだと、廃部です、って。

カップパにも、文化祭で舞台なんか、本当にできるのかって言われてたし。

忘れるなよ。

ダイ だって、ずいぶん前のことだし。

しばらく何も言われてないから、たぶん大丈夫だと：

ダイ はー、おめーなー：

田村 ねえ、思ったんですけど、

カップパ先生、天井を指さしているだけかもしれないじゃないですか。

ダイ (かわいく)「あつ、ゴキブリだ!」
ありえない。

イトウ そうか、お化け屋敷じゃなくて、演劇部か…

ダイ そっちの方が納得いくだろうな。

イトウ ザ・デイ。副題。演劇部の終わりはカップと一緒に。

田村 演劇部、終わっちゃうんですか。

イトウ …いや。やめない。

体育館のステージでやれなくても、校庭でも、やる。

誰も見てくれなくても、やる。一人でもやる。

っていうか、もともと一人だし。

田村 (感動して拍手)

ダイ …そういう意固地なところがあるから…

イトウ ダイ? なんだって?

ダイ なんでもないよ、わりい。

イトウ なんかつただろ。

ダイ 悪かったよ。いいよ。

イトウ よくないよ。

ダイ そういう意固地なところがあるから…

イトウ 言えよ。

ダイ おまえがそんなふうに頑固だから、

みんな辞めちゃうんだよ。他の部員、みーんな。

田村 ダイ君!

ダイ で、一人ぼっちじゃねえか。

なあ、イトウ。やめたっていいじゃねえか。やめたって誰も文句言わないし。

イトウ (小声) 誰も文句言わなくても…

ダイ やめる理由、ありすぎだよ。

部員はたった一人、しかも三年生。

一人で群像劇だって、あきらかに無理あるだろ。

で、文化祭直前に部室は水漏れ?

文化祭に出なかったって、みんな当然だと思う。思うよ。

イトウ …

田村 でも、イトウ君はあきらめないよね。ねっ。

わたし、応援するよ。手伝うよ。

ダイ なんだあきらめないんだ?

あきらめない理由を、おれに教えてくれよ。

なあ、イトウよう。

(間)

女3 クシュン。

田村 えっ、誰？

（間）

女3 クシュンクシュンクシュン。

例のユーレイがこそこそ出てくる

ダイ まさか、本物のユーレイ？

女3 これが濡れてるんだよ。冷たいし。（布を投げ捨てる）

ダイ 貴様、いったい何者だ？

ユーレイじゃなかったらゴーストか？（ひとりつつこみ）

田村 あの、あなたは？

イトウ 元演劇部。

女3 元じゃない。

イトウ 辞めたんじゃないかったのか。

女3 あたしは辞めるなんて…

イトウ 何しに来たんだ。

女3 （田村に向かって）

いやー、あたし演劇部でしょっちゅうユーレイ役やってたから、

いやわき役だったけどね、いつも。

おばけ屋敷見て、なんかナツカシーなー（一人笑う）…なんて…

田村 この布でわざわざ？

女3 いやー、そこらへん歩いてたら、これが落っこってたからさー（一人笑う）

…なんて…

イトウ バカにしに来たのか？

女3 いやー、たまたまゴンドウに会って聞いたらさ、

あんたが一人でやってるって聞いて、ちょっとだけ見てみようかなー

…なんて…

イトウ みんな演劇部のこと、もうどうでもいいんだと思ってた。だから…

女3 …イトウ、なんでそんなに無理するんだよ。

そんなんだから誰も残らないんだよ。

その人の言うとおり、何で一人で頑張ってるのか、全然理解できないよ。

みじめなだけじゃん。

イトウ 俺もそう思う。

女3 一人になって、さみしくて、みじめで、

ダイ　そこまで言わなくても。

女3　無理して、がんばって、

誰も、助けてくれなくても、

最後まで、一生懸命、やり通して…

イトウ　：

女3　じゃあ。あたし忙しいから。

女、布はその場において退場。

ダイ　あれがホントの幽霊部員か。

イトウ、幽霊部員の消えた方をじっと見る

イトウにサス。遠くから虫の声

イトウ　夏の夜でした。

学校のキャンプで、みんなで抜け出して星を見に行きました。

流星群を見に、海沿いの原っぱで、じっと待っていました。

でもその日は曇り空。じきに小雨まで降ってきました。

友達は、一人二人と帰っていった、いつの間にか俺一人になってしまいました。

あたりは真っ暗、泣き出してしまいそうでした。

でも。そうしていると、目の前を一つ星が流れてきました。

足下から、数えきれない星がわいてきました。

それは、星ではなく、蛍でした。蛍の群でした。

見たことがないほど美しい光でした。ずっと見ていたい、美しい光でした。

第七場

下手からアカリ、ゆっくりと登場。

アカリ　ああ、みんな…、それがね…

みんな、顔をあわせて沈黙。

イトウ　何も言わなくていいよ。

田村　何よ、みんな、グダグダやってんじゃないわよ。

(きりっと) アカリさん!

アカリ (びっくりして) はい!

田村 イトウ君たらグジグジしちゃって、もうしょうがないったら。

アカリさんから、どーんと、どついてやって下さい。

ダイ ヨシミちゃん。

田村 甘ったれてんじゃないわよ。

やれるだけ、いいじゃない。何かやることがあるなら…やれるなら!

男なら、一度決めたこと、ちよっと人に言われたくらいであきらめないで!

(はっと我に帰り) …ください。

(間)

イトウ …田村さん。わかったよ。

アカリ おれ、やるし。自信もってやるから。絶対やるから。

アカリ 当たり前じゃない。お化け屋敷やるよー。何言ってるの、イトウ君?

ダイ どういうこと?

アカリ みんな勘違いだったのよ。勘違い。

ダイ ゴンドウはやっぱり頼りにならねえか?

アカリ いやー、それがさ。

クラスに小菅(コスゲ)君っているよね。

ダイ あーいたな。

アカリ その小菅君が、警察に捕まっちゃって。

田村 ええ?

アカリ で、小菅君の謹慎期間をめぐって、

うちのゴンドウとへのカッパが(指でけんかの印を)

ま、それなりに深刻なんだけど…

イトウ 何やったの?

アカリ 密漁。

イトウ は?

アカリ 密漁よ、密漁。海でウニ捕って密漁。たまたま海で遊んでてウニつかまえて、その場で食べて現行犯逮捕。

(間)

田村 それじゃあ、文化祭の催し物が中止っていうのは…

アカリ 全然ありません。

ゼーんぶ、ダイのはやとちりよ。

ダイ おれなのかよ。

アカリ カップが「停学、1週間！」（と人差し指を立てる）

ゴンドウ先生が、「それはきびしすぎる」（と泣く）

「ウニなんですよ、ウニ。それで1週間ですか」

全員 はーあ。

イトウ 中止じゃない…のか。

アカリ あたりまえじゃない。

なに、みんな、変な顔して。

さあ、準備はまだ。終わってないんだから。

ウエキが下手からとびこんでくる

ウエキ ちょっとちょっと、まじやば〜

アカリ どうしたの？

ウエキ ゴ・ゴ・ゴ・ゴ…

ダイ ゴ？

ウエキ 暗幕がない！

みんな え！

イトウ （小声）「ゴ」はどうした？

ウエキ 今さっき、生徒会室に行ったら、もう全部貸し出されちゃって
うちにクラスにはもう残ってないって…

アカリ 一枚も？

ウエキ 一枚も。

みんな絶望の淵に

ダイ 暗幕がなかったら、お化け屋敷なんて無理じゃん。

アカリ そんな…

田村 アカリさん！

ウエキ イトウ、さっき、とことん応援するって言ったよな。

イトウ いや、そんなこと言われても…

ウエキ どーしよ…

イトウ、ウエキに突っ込まれ、困って身をよじる。

するとそこに落ちていた黒い布を発見し、拾い上げる。

あのユーレイ部員が落としていったものであった。

田村 ユーレイ部員さんの、

ダイ もしかして、

ウエキ 暗幕？

アカリ どこから？

ダイ なんて濡れているんだ？

イトウ 演劇部の部室の…

ダイ 水漏れだ。

(間)

イトウ そう言えば暗幕、演劇部の部室にある。確か…何枚も！

田村 今度のお芝居には使わないんですか？

イトウ (うなずく)

アカリ 借りられるの？

イトウ 全部貸す！

ウエキ 演劇部、サイコー！

アカリ イトウ君がいてくれてよかったー！

ダイ じゃあさ…

田村 (さえぎるように) じゃあ、さっそく演劇の部室に取りに行かなくちゃ。

さあみんな、いくわよー！

みんな オー(?)

みんな、出て行きかける。

アカリ (ダイに向かって) 田村さん、へんしん？

出て行きかけてふと気づき、ダイとイトウ顔を見合わせて少し戸惑う様子

ダイ以外はみんな退場。

ダイにサス。遠くから野球部の声

ダイ おれは、ずっと野球をやってきました。

高校でも野球部で、自分なりに頑張ってきたつもりですが、でも、三年間ずっと控えてきた。控えのピッチャーでした。

練習は厳しいし辛いし、なんでやめないのかわかって、自分でも時々思いました。

いや、時々じゃなく、しょっちゅう思っていました。なんでやめてしまわないのかって…レギュラーにもなれないのに。

でもこの夏の県予選のことです。ベンチのおれに出番が回ってきました。

ピンチヒッターから、守備に回りました。エースはその日調子が悪く、控えのピッチャーがリリーフしました。控えのピッチャーと控えのキャッチャーのバッテリーです。

そして、それは、小学校からずっとバッテリーを組んだ、おれたち、おれとコンちゃんの組

み合わせだったんです。中学校では、近隣でも評判の、黄金のバッテリーでした。二人で、甲子園に行こうと約束しました。でも、高校では、二人とも三年間、結局レギュラーにはなれませんでした。その短いイニングが、二人のすべてでした。でも…気持ちよかった。コンちゃんは絶好調で、球が走っていました。おれも気持ちよく受けました。ああ、この時が永遠に続けばいいと、思いました…

第八場

ダイだけが引き続きいる。

ダイは、そこに置いてある布を見つけて、ふとかぶり、ユーレイ姿になる。

そこに、田村が下手より登場。何か忘れ物を取りに来た様子。

田村 ユーレイ部員さん、まだそれ、かぶっているんですか。

ダイ、左右をきよろきよろ。自分に話しかけていると気づき慌ててうなずく。

田村 なんだから、それ、いいですよ。明るい引きこもり、って感じで。

…あつ、ごめんなさい。悪い意味じゃないんですよ。

さつき、言ってたでしょう？ 脇役ばかりだった、って。

私ね、私…今まで脇役じゃなかったことってないんですよ。人生の中で。

ふふ、変ですね。こんなこと、会ったばかりのユーレイ部員さんに言うなんて。でも今日は、今日は違う。主役でも脇役でもない、みんな一緒。そんなふうにはじめて思った。

みんなにとっては、こんな日も、なんでもない一日なんだろうな。

アカリさんもイトウ君もウエキさんも…ダイ君も。

(間)

田村 ここに来たのはね、大好きなものを、もう一度見ておきたかったから。

永遠に始まらない文化祭の前の日の…

ダイ、体で、「田村さんはどこかに行ってしまうのか」というようなことを伝えようとするが、あんまりうまくいかない。

田村　ありがとう、聞いてくれて。

下手からどやどやと人の気配。

田村、急いで下手から出て行く。ダイ、それには気付かず、

ダイ　あのさ、田村さん、よかったら明日いっしょに、

暗幕を手い手に、みんな登場。

アカリ　（きっぱり）お断りします。

ダイ、ガーンとショックであるが、もちろんそれは誤解。

ウエキ　えー、いいじゃん、やろうよー。

アカリ　あたし、オンチだから…

第九場

学校のざわめき。ウエキとアカリはいそがしく準備している。

ダイはもの言いたげにイトウを見る。

田村は上手側からゆっくりと登場。

イトウ　（初老の男ふう）

父さん、今日は、酒を持ってきたんだ。

大吟醸春風だぜ。父さんはいつも安いワンカップだったからな。

なあ、父さん。こんなふうには素直に、父さんと話せるなんて何年ぶりだろう。

なあ。おれ、父さんにはいつも反発ばかりだったな。自分で店をやる、なんて言って、父さんの言葉を見無視して、結局つぶしちゃった。父さんは全部、わかってたんだな…

ダイ　おい、イトウ。

イトウ　なんだよ、練習中だよ。

ダイ　あのな、おれ、今、ひまなんだよね。

イトウ　相手をしてる時間はないね。

ダイ　この芝居ってさ、大道具とか、ないの？

イトウ 人もいないし。おれがなんとか少し作ったのも、ほら、部室があれで。

ダイ あのさ、明日の今日でなんなんだけど。

イトウ 何だよ。

ダイ いやー（もじもじ）

イトウ （自分の持ち場に戻ろうとする）

ダイ あのな、おれ、少し、手伝いたい、な、なんて…

あ、迷惑だったら、

イトウ、ちょっと驚いて、二人見つめ合う。

イトウ ダイ、全然、全然迷惑じゃないよ。

例の学校放送の音楽。ムードたっぷり。

イトウとダイ、見つめ合い、少し恥じらう。

音楽で思いつきりひっぱった後、唐突に

放送の声 「文化祭準備で残っているみなさん、下校の時間です。

早く下校しましょう；」

ウエキ 放送部、わざとやってるだろ。

イトウ じゃあ、さ、

ダイ うんうん。

イトウ 墓、造ってくれない？

ダイ お墓？

イトウ 得意だよな。ここにもいっぱい造ってあるし。

アカリ ダイ、こっちの看板、もう少して終わるからいいよ。

ウエキ これ、父ちゃんの墓の前？

イトウ そう。

ウエキ 墓かよ。

イトウ なんだよ。

ダイ ユーレイも出すか？

「うーらーめーしーやー」

イトウ いや、遠慮しておく。

ウエキ で、誰ー？

イトウ 誰って、誰が？

ウエキ 犯人よ。

ダイ 犯人？

ウエキ この劇の犯人、誰？

あたし、こうやって見てても、ちょー全然わかんなかった、犯人。

イトウ いやーおれも、それはちょっと：

ウエキ イトウ君のお芝居ってチョーむずかしいしー

ダイ ウエキさん、きみってある意味、かなり貴重だ。

アカリ (提灯を回しながら) ねえねえ、ウエキ、走馬燈って知ってる？

ダイ お代官さま、ウエキにはとても無理でござえますだ。

ウエキ なんか、みんなであたしを、はめようとしてるし

アカリ 人が死ぬ直前って、ね、走馬燈のように自分の人生が見える、って言うでしょ。
くるくるくるってね。

でも、わたし思ったんだけど、人生全部見直さなくてもいいな、って。

どっか一日ぐらい、すごくいい日をもう一度やり直せたらいいと思わない？

イトウ それは、難しいな。

アカリ 何が難しいのよ。

イトウ いや、すごくいい日、って

例えばどんな日のことか、っていう問題もあるしね。

アカリ 結婚式、とか？

ダイ 入学式とか、卒業式とか。

イトウ みんな式関係ですか。

アカリ 恋愛関係だっていいかもよ。

はじめてのデート、とか。

やーん、はずかしい。

ダイ はじめての●△×とか、はじめての○▼×とか

イトウ それもいいかもしれないね。

ダイ いや、まじめに言われると。

アカリ ダイはそっち方向なわけね。

ねえ、田村さーん。

ダイ な、な、なんで、そこで田村さんと呼ぶんだよ。

アカリ へっへー。

あれ、田村さん、いない？

田村さーん。ダイ君が呼んでまーす。

田村、上手で静かに笑っているが、

アカリは気がつかない。

アカリ 変だな、さっきまで：

ウエキ ワールドカップ！

ダイ わっ、びっくりした。なにですかあ？

ウエキ だから、今のアカリさんの話。

イトウ 人生で、もう一回くりかえしたい日？

ウエキ そう、絶対。サッカーのワールドカップ。

ベッカム、ちょータイプ。ちょーカッコいい。

ベッカムなら不倫してもいい。

ダイ ウエキくん、きみは、本当に貴重だ。
うん。

ウエキと田村にサス。少しずつ田村のサス消え、

ウエキにサス。遠くからワールドカップの声援の声…

ウエキ ワールドカップの時、テレビで見ただけなんだけど、あれには、まじ感動したね。ほんと。

だって、あたし、お父さんのこと嫌いってわけじゃないんだけど、おとんとあたしの時間
帯って全然違うから、あんまり話とかしないのに、ワールドカップの時は、あたしもおとん
も、ちょー早く家に帰ってきて、買い置きしてあったサッカーのポテチ食べながら、二人で
ちょー応援してた。

一勝すること、おとんと、あの、おとんとハグってたんだよ！ やばいよね。…ワールド
カップが終わったら、あたしとおとんの仲は、また前に戻っちゃったし。また、あの時に戻
りたいとは思わなかったけど、またあの時のような日が来るのかな、ってちょっとだけ期
待する日もある。ってゆうか、あった。

（間）

…あれからおとんがいなくなって、おとんが、車の事故でいなくなって。それで、あのワ
ルドカップのこと思い出すと…思い出すと…（泣く）

第一〇場

みんなとは少しはなれたところに、田村がいる。

田村はみんなを笑顔で見守っている。

アカリ ねえイトウ君、

お芝居、最後はどうなるの？

世界は本当に、終わってしまうの？

ダイ それは、おれも聞きたい。

みーんな死んじゃう予定なら、お墓、もっと作ろうか？

イトウ もういいよ。

ダイ えーい、おまけだ。

ユーレイもつけてやるー。

ウエキ　ねえねえ、田村さんどこ行ったかなー？

ここ、あと少し縫ってほしかったんだけどー。

田村さん、上手だしー

アカリ　色白いしー、

ウエキ　かわいいしー、

ダイ　イトウ君、おれの耳かき知らない？

ウエキ　なんで耳かき。

イトウ　これは、ダイのような人間に見られる行為だね。

アカリ　ダイに見られる行為。

イトウ　彼は、田村さんの話題になると、妙な行動に出る。

恥じらい、とか、照れ、だろうね。そんなたぐいの一種の感情の現れだ。

ダイ　（一人でさがす）耳かきー、おれの男らしい、すてきな耳かきー。

イトウ　最後の場面の練習しようかな。

アカリ　私も手伝うー。

ウエキ　あたしもー。

ダイ　みんなありがとー。手伝ってくれて。

ウエキ　ちげーよっ。

イトウ　お化け屋敷の方、もういいの？

アカリ　うん、これでっつと。

イトウ　これ…（ポスターを手取る）

アカリ　あれ、さっきまでなかったのに。

ウエキ　なんだ、イトウ持ってたの。

イトウ　いや…？

アカリ　あとは、明日の午前中飾り付ければオーケー。

ウエキ　そもそも三回目だしー。手慣れたもんだしー。

で、イトウ、どうすればいいの？

イトウ　この場面は、ある家族の最後の日なんだ。

この一家は、世界の最後の一日を、普通に、いつも通りに過ごすことに決めた。いつも通りに、ご飯を食べて、いつも通りに寝て。

アカリ　ねー、なんだか、わたし、変な感じがする。

イトウ　変な感じ？

アカリ　前にもこんなことがあったような気がする。

ウエキ　だから三回目だって。

アカリ　ううん、みんながいて、

イトウ君が説明して、ダイがなんかさがしてて…

こんな一日の終わり。

イトウ　デジャブ？

アカリ　…かなあ。

いつも通りの一日だけど。
ウエキ　でも、あたしははじめて。

アカリ　何が？

ウエキ　イトウとか田村さんと…

クラスの子たちと、こんなにたくさん話したの、はじめて。

アカリ　そうかな…そうかも。

イトウ　…だな。

3人は顔を見合わせる。

田村もほほえむ。ダイは、

ダイ　あった！ あれ？　耳かきじゃなくて、

孫の手でした！。

アカリ　なんで孫の手。

ウエキ　あっ！

アカリ　なに？

ウエキ　空、きれい。

ウエキ・アカリ・イトウ・ダイ、少し遅れて田村も、窓から空を見上げる。
静かで大きな夕焼けだ。教室は夕焼け色に染まる。

イトウ　もうそんな時間か。みんな、遅くなる前に帰らなきゃ。

アカリ　だから、やっちゃおう。

みんなバタバタと片づけ。

イトウ、中央のちゃぶ台の所に行き、座る。

ちゃぶ台を囲んで、アカリ・ダイ・ウエキも座る。

上手の田村はみんなをやさしくじつと見つめる

イトウ　今日のご飯もいつも通り、うまいな！。

かーさんの作ったご飯は最高だ。父さんなんか三杯目だぞ。

ほら、みんなもおかわりしなさい。

みんなご飯を食べる。

ダイ　うんまーい。焼き肉、最高。

アカリ　焼き肉なの？　これ。

ダイ　焼き肉としゃぶしゃぶとステーキ。

ウエキ （棒読み）あーうまい、これー。
ダイ あれ、ほんとに、腹、鳴ってるー。
じゃあな、父さん、おやすみ。
イトウ お、ダイ、おやすみ。

ダイ、自分の荷物を持って、下手から帰りかける。
上手の田村、ゆっくり手を振る。

ダイ あ。田村さ…。

（にっこり）明日でいいか、明日で。

ダイ退場。

ダイを含め、誰も田村には気づかない。以下同様。

アカリ ウエキ、あんた何食べてんの？

ウエキ キュウリ。

アカリ キュウリ？

ウエキ だって、あたし大好きなんだもん。

アカリ 手づかみ。

アカリ、カバンを持ち、帰る。

アカリ じゃあ、お父さん、お休みなさい。

また明日。

イトウ よしよし、また明日。

アカリ 明日、文化祭、がんばろうね。

上手の田村、手を振る。

ウエキ （もりもり食べる）

おいしい！ あー満腹。まんぞくー。

イトウ そうかそうか。

ウエキ やっぱり、うちのご飯がいちばーん。

イトウ うんうん。

ウエキ じゃーお休みー。

（にっこりと）お休み、お父さん。

イトウ 気をつけてな。

ウエキ おとん、お休み。

ウエキ、帰る。

田村、手を振る。

いつのまにか、舞台全体は薄暗く、
田村のまわりだけが光っている。

イトウ

おー、みんな寝たか…

お父さんはとても満足だ。

今日は何もない一日だった。

でも今日はとてもいい一日だった。

（間）

じゃ、帰るか。（誰にともなく）バイバイ。

田村、大きく手を振る。

イトウ、教室の電灯のスイッチを切る。暗くなる。

田村、イトウがいなくなってもしばらく手を振り続ける。

みんなの去った後をじっと見る。音楽が始まる。

田村

今日はみなさん、どうもありがとうございました。

この一日を、私にもう一度過ごさせてくれたのが、どんな神様かはわからないけれど…感謝します。

先生たちにも感謝します。あのとき、みんなには私の病気のこと、黙っていてくれて。

（人差し指を立てて、静かにそれを口元に持って行く。「シーー」という形に）

田村、ゆっくり舞台を振り返る。

お化け屋敷の大道具や小道具の散乱した教室。

田村

私の特別な一日について話します。

それは文化祭の前の日のことでした。

文化祭が始まりそうで始まらない、

永遠の一日でした…

照明、徐々に暗くなる。

薄く、そして美しい照明。田村の心を映す。

音楽、高くなる。

——幕——

〈おねがい〉

この戯曲は、「佐藤かつら戯曲館」への掲載にあたり記号の表記などを一部改めて打ち直し、体裁を整えたものです。ダウンロードして練習脚本などとしてお使いいただくことができます。実際に上演される際は「佐藤かつら戯曲館」ホームページにあります「上演を検討される方へ」をお読みの上、ご連絡ください。